



きらめく風

すすんで学ぶ子ども 心ゆたかな子ども 体をきたえる子ども

未来に向かって

旭町小学校長 道山 正史

学芸会には、大勢の方々のご参会をいただき、誠に有り難うございました。皆様の大きな拍手、温かい眼差し、優しい言葉かけは、きっと子供たちの心に深く刻まれ、今後の新たな活動のエネルギーになったことと思います。私は、子供たちの生き生きと楽しそうに、そして緊張して演技や仕事をする姿に、「充実感」「達成感」「満足感」といった言葉を思い浮かべる2日間でした。これまでの学芸会への長い取り組み期間の中で、様々なことを我慢をしながらも、自分の役割を果たそうとしている姿、そしてそれを充実感を味わいながら楽しんでいる姿、これまでの練習の成果を生かして力一杯本番に演じようとしている姿に私は感動し、誇りに思います。

学芸会や音楽発表など「文化」的な行事が続いた秋でしたが、この「文化」(culture)には本来、「栽培・耕作」(culture)という意味があります。人類は火の使用や道具の発明から始まり、科学技術の進歩発展による経済基盤を確立し、社会生活に必要な法律制度や道徳、宗教や暮らし方などを、植物を育て土を耕すように少しずつ創り上げてきました。そのような文化を新しい社会が受け継ぎ、人々は学習によって身に付け、人との関わりや地域社会でさらに発展をさせてきました。しかし、最近のあまりにも激しい変化への対応や物事を早く手際よくやることに価値を見いだすような風潮が逆に今まで積み重ねてきた「文化」を破壊してきているのではないかと危惧しています。人間にとって何が大切か、何が必要なのかをしっかりと見極めることができる感性や力の育成が求められていると良いでしょう。

さて、今年もあと1ヶ月となりました。お坊さんが忙しく走り回るので「師走」というのだそうですが、ついこの前「午(うま)」の年になったのかと思ったら、もう「未(ひつじ)」になっちゃうのか・・・と思っているのは私一人ではないと思います。1年1年があっという間に過ぎていくのはどうも歳のせいばかりではなさそうです。今年一年、じっくりと腰を据えて物事をやってきたかどうかを自省し、来年の目標を見定める一ヶ月にしなければなりません。

この1年、たくさんのできごとがありました。でも、旭町小学校としては大過なく順風な1年だったといえるでしょう。これも職員の頑張りや保護者の皆様、地域の皆様、旭町小学校の子供たちのことをいつも考えてくださっている皆様のおかげと厚く感謝申し上げます。2015年、平成27年もどうぞよろしく願いいたします。

